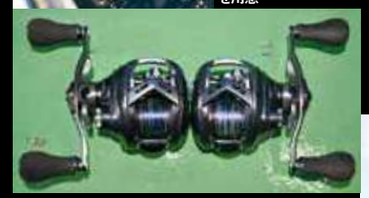
REEL

マルイカの最強ウエポン
アドミラA150

◉アルミフレームで軽さと剛性を兼ね備えたアドミラA100の新製品、アドミラA150シリーズが登場。第一の特徴は高い初期性能が長く続く「ハイパードライブデザイン」の搭載で滑らかな巻きが持続できること。PE1.5号が200メートル巻けるスプール径、110センチのハンドル長で巻き上げも楽、TWS搭載でライン放出性能もアップ。ギア比はP、H、XHの3種。マルイカ以外にタチウオ、マダイ、ヒラメ、マダコなど幅広い釣り物に対応。2月発売予定。



◀110ミリのハンドルは滑らかな巻き上げ力もサポート
▼ギア比別に3種にそれぞれ右巻きと左巻きを用意

品名	価格(¥)	巻取り長さ(cm)	ギア比	自重(g)	最大ドラグ力(kg)	PE(号-m)	ナイロン(号-m)	ハンドル長さ(mm)	ベアリング(ボール/ローラー)
A150P	38,000	54	5.5	175	5	1.5-200/2-150	3-140/4-105	110	4/1
A150PL	38,000	54	5.5	175	5	1.5-200/2-150	3-140/4-105	110	4/1
A150H	38,000	71	7.1	175	5	1.5-200/2-150	3-140/4-105	110	4/1
A150HL	38,000	71	7.1	175	5	1.5-200/2-150	3-140/4-105	110	4/1
A150XH	38,000	81	8.1	175	5	1.5-200/2-150	3-140/4-105	110	4/1
A150XHL	38,000	81	8.1	175	5	1.5-200/2-150	3-140/4-105	110	4/1

ROD & GOODS

メタリアマルイカ
メタルトップ採用で繊細なアタリも優れた目感度で表現。ゼロテン155とマルチ145の2タイプ。
◉メーカー希望本体価格39,900円。発売中

極鋭マルイカEXLC
自重54グラム、軽さは感度を突き詰めた専用ロッド。ゼロテンからの合わせに対応するパワーと調子を追求。
◉メーカー希望本体価格75,500円。発売中

船ベリイカマット
糸が絡みにくいフラットデザイン。折りたためるコンパクト設計。FL250とFL500の2種類。

◉メーカー希望本体価格は2270円と2950円。2月発売予定

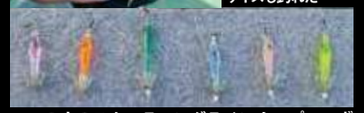
SUTTE

ミッドスッテ35Sリフレクト
ボディ内部の骨が紫外線で光るリフレクトボディ。カラーは7色増えて14色。0.5ミリ6本立てカンナ。
◉メーカー希望本体価格440円。発売中

ミッドスッテ35S
実績の高いウロコボディのスッテが35ミリサイズで再登場。カラーは7色、0.5ミリ6本立てカンナ。
◉メーカー希望本体価格330円。発売中

▼この日はほぼ入れ乗り。ダブルヒットも頻繁だった

◀手のひらに収まるサイズも釣れた



▲▼2人のスターティングラインナップ。いずれも下2本が直ブラ、上4本が直結だ。(写真は上が渡辺、下が荒井)

カEXLC」、荒井さんが「メタリアマルイカゼロテン」という最強の組み合わせ、新製品のスッテもたっぷり用意している。

ともあれ、今期初めてのマルイカに2人ともやや緊張気味の投入ではあったが、オモリ着底後すぐ、

「あっ、乗りました」と荒井さんがリールを巻き始める。取り込んだのは15センチ級のマルイカとヤリイカの一荷。今期初見参のマルイカに2人そろって歓喜の声をあげた。

続いての投入でも荒井さんにマルイカがきて、

「いや〜、このリール巻きが軽いんでこの水深でも楽らくです」

出遅れた渡辺さんもすぐに乗りがきて20センチ級を取り込み、ホッとひと息の表情。

「マルイカにはギア比7：1のHがいいかも。巻きも軽いし巻き上げも速いんです。スピード重視ならXHの8：1、パワーと巻きの軽さならPの5：5もあります」と分かりやすく解説。

当日はナギでほどよく潮も流れていたせいか、1流し2〜3投のペース。驚いたのは投入ごとに乗りがあって、多点掛けも見られる状況。胴長10〜15センチの初期ならではのサイズがメインながら、

「これほど釣れるとは思いませんでした」と開始2時間で2人とも軽く20杯オーバー。マルイカリサーチ、新製品の実力も十分検証できたと、11時前に早揚がりを決めた。

「今期もマルイカは安泰ですね」と2人は納得の表情で帰り仕度を始めるのだった。

動画連動!

★当日の動画はダイワ「船最前線」よりご覧になれます。

◉記念すべき今期初のマルイカを釣り上げた荒井良乃介さん

◉今期初挑戦。名手渡辺太吾さんのアテンドが見事に決まった

マルイカシーズンに向けて最新小型両軸リールのすすめ

◀2人が用意したのは最新、最先端のマルイカタックル
▶150番サイズになって糸巻き量、巻き上げ力もアップ

渡辺太吾、荒井良乃介 深場マルイカを快適に釣る

THE FRONT OF OFF SHORE FISHING vol.90

マルイカ最前線

at 三浦半島小網代港出船

◉いよいよマルイカシーズンの始まりである。今期の状況はいかなるものか、ファンにすれば大いに気になるところ。昨年末、渡辺太吾、荒井良乃介の両氏がマルイカ状況を探るべく試し釣りで出船。もう一つの目的は、最新小型両軸リールのお披露目にもあった。

▲ゼロテンから合わせが見事に決まった

▶渡辺さんのアドバイスを受けながら次つぎと掛けまくる

「今シーズンも釣れるといいですね」と荒井良乃介さん。

「大丈夫、絶対に釣れるはずです」と言いつつも、渡辺太吾さんは今期初出船のマルイカに多少不安げな表情。何せこの時点で、どの船宿もマルイカを狙っていないのである。

期待と不安を胸に、三浦半島小網代港より7時に出船となる。20分ほど走って到着したのは城ケ島沖水深90メートル前後。初期は100メートルを超える釣り場も狙うが、マルイカでは電動より手巻きリール派が大半。名手と呼ばれる方はほとんど手巻きを使用しているのが実情だ。

「タタキ、ゼロテンの操作性、アタリのキャッチ、巻き上げ中のバラシ軽減、軽さなどで見れば、やっぱり手巻きなんです」と渡辺さん。

「今回使用するのは最新の小型両軸リールなんです。とにかく深場であっても快適な釣りが楽しめるはずです」と言いながら取り出したのが間もなく発売となる「アドミラA150」である。

何より、滑らかな巻き心地の「ハイパードライブデザイン」の搭載、ギア比が3種類、糸巻き量も豊富で様ざまな釣り物に対応できるのが特徴とのことだった。

竿は渡辺さんが「極鋭マルイ